

令和7年度第3回長岡京市部活動地域展開検討委員会

1 日 時

令和8年2月9日(月) 午後6時～7時15分

2 場 所

長岡京市役所 本庁舎 会議室801

3 出席者(順不同、敬称略)

委員 中村 和雄、大島 嘉人、三古 剛、小國 俊之、森 昌彦、田中 進
小山 慎也

欠席委員 なし

事務局 教育長 西村 文則、教育部長 中島 早苗
教育部次長兼文化・スポーツ振興課長 宮崎 隆弘、
学校教育課長 渡邊 まどか、
学校教育課総括指導主事 阿部 隆、学校教育課指導主事 安池 美希子、
学校教育課学校教育指導主事 縄手 健也、
スポーツ振興係長 鈴木 忠範、文化振興係長 木村 映美、
スポーツ振興係主事 三宅 智也、スポーツ振興係主事 江森 仁耶

傍聴者 なし

4 内 容

1 開会

(1) あいさつ

2 報告事項

(1) 令和7年度の報告

(2) 令和8年度以降の進め方

(3) 部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン
(文部科学省通知)の紹介

3 意見交換

4 その他

5 閉会

5 議事等の内容

1 会長あいさつ

2 報告事項

1 報告事項

(1)～(3)について

事務局より説明。

3 意見交換

委員：試行事業の報告について、会場はどこを使っているのか。

事務局：市内の小中学校の体育館や武道場、空き教室を使っている。

委員：現時点で、土日に行われていない部活動が学校の部活動と重複することなく行われているのか。

事務局：バレーボールは部活動と重複していない。剣道については、タイミングが合えば部活動の都合に合わせて実施している。卓球、吹奏楽については部活動の時間の中で指導者を派遣している。改めて機会を設けているのはバレーボールのみ。試行事業をしてみて、追加で会場を確保することが極めて困難だった。バレーボール体験会は運よく実施できたが、他の種目は、会場と部活動の調整が難しかった。

委員：土曜日にも部活動以外で学校を使用しているのか。

事務局：学校開放事業を行っているため、各校区で登録された市民団体が各校区で調整して学校の施設を使用している。

委員：部活動は学校の活動なので、部活動を優先して施設を使用することも可能なのか。

事務局：もっと大規模になってくると優先順位という考え方も出てくる。一方で、今の部活動がそのまま地域に移行すれば、部活動と同じ時間を使ってもらえれば場所の問題は起きないのではないかと思う。

委員：試行事業が進んだら学校教員の兼業はどのような形になるのか。

事務局：資料に載せているものは例の紹介だけで、先生や地域の人がどういうことをすればいいのかがわかるように載せた。実際に、どのような形になるのかは現時点では決まっていない。

委員：バレーボール体験会はバレーボール協会が主体となっているが、先生は一緒に指導はしていないのか。

事務局：バレーボール体験会は拠点校型の試行事業になっている。バレーボールは長二中で部活動があるので、顧問の先生も土日の活動に協力いただいている。クラブチームが成立してからはクラブチームの指導者として協力していただいている。

委員：試行事業とはいえ責任はあるので心配だった。色々手探りながらやっていることがわかった。

委員：それぞれの試行事業の広報はどのように行って、参加された生徒たちの感想はどのような感じなのか。

事務局：広報は、学校への電子配信（スクリレ配信）を行い、電子上で申込やメール

での申込を行っている。バレーボール体験会に関しては、一時は中学生のみを対象にしていたが、対象を小学生までに広げたところ、市外からも申込があり、バレーボールをする場ができたことがありがたいと参加者や保護者からいただく。

- 委員：やりたくてもできなかった子にとってはありがたいと聞く。
- 委員：良い事例ができたので拠点校型も増やしていければいいと思う。
- 委員：拠点校以外の生徒も試合に出られるのか。
- 委員：クラブチームになったので、部活動ではないクラブの大会に実際に出た。
- 委員：吹奏楽はどのような感じなのか。
- 委員：吹奏楽もバレーボールのような拠点校型にしようと思ったが、移動の問題があり、一つの中学校を拠点にしようとしても結局4つの中学校からの要望で等しく支援することになった。支援の内容については各校区の要望に合わせて指導者派遣をしている。
- 委員：確認だが、休日の部活動を地域に移行することをメインにしているということか、また、「総合的なガイドライン」の概要にある部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展とあるが、実際に部活動を地域に移行した際に、どのようなイメージになるのか。
- 事務局：今は事例はないが、スポーツの競技性だけではなく、部活動が行ってきた人間性の成長や教育的なものを引き続き地域展開しても求めていかなければならないという認識。
- 委員：アンケート結果にあるように、教職員にとっての部活動の目的は、規律やマナー・礼儀を学ぶこと・仲間意識を高めることに重きを置いている。このような教育的なことを指していると思う。
- 委員：当然といえば、当然のこと。今さら書くことではないように感じた。
- 委員：ガイドラインの概要に競技力向上や質の担保と書いてあるが、上手くなりたいう子と楽しみたい子が混ざってしまう。そうなったときに、どのようにコントロールして、誰が見るのか。
- 事務局：勝つことも大事だが、勝てば何をしてもいいわけではない。偏りすぎないように行政からも伝える機会を増やしていきたい。
競技力に特化したい子はすでに既存のクラブチームに所属している場合が多い。ある程度の競技力向上と楽しむことを期待している子に適切な活動をさせることがポイントになると思っている。
- 委員：競技力向上は悪いことではない。外部から指導者が来た際の伝え方や、一人ひとりに対して細かく接するようなことができるのか。
- 事務局：定期的にチェックできれば一つの手だが、他にも、満足度調査のようなものを定期的に確認し、子どもたちのニーズを確認できる機会になれば安心できるのではないかと思う。
- 委員：複数チーム選べる種目は心配ないが、チーム数が少ない種目では心配がある。
- 委員：学校教育の中の教育的配慮を生かしていきながら進めていきたい。活動を通じて子どもが満足して、成長していくことが一つの観点だと思う。
認定地域クラブや安全性の担保など、方向性を定めたガイドラインを市が決

めて、こういう場で確認していきたい。

- 委員：今行っている試行事業は顧問の先生の協力があってこそだと思う。この先、移行が進んだ際に、顧問の先生がどのような関わり方によって変わってくる。その差を地域で埋めようとするのは認定地域クラブとしてふさわしいのか。今行っている指導者派遣は全校区で可能な限り平均化を心掛けている。このやり方が平日も行うとなると、指導者も忙しいので校区によってバラつきが出るのではないかと。令和12年度中に休日は完全移行を目指しているが、それ以降が心配に思う。移行が途中で不可能になることも出てくるのではないかと。
- 事務局：現時点では何とも言えないが、ひとまずのゴールは令和12年度までに休日の部活動は完全移行を目指す。その先は、継続できる場所もあれば、バランスが崩れる可能性もあると思う。令和12年度のゴールを目指す中で、他の選択肢も出てきて、そのときの状況を加味しながら相談していくしかないかと思う。
- 委員：体育館や武道場のような特定の場所を使用するのは問題ないと思うが、吹奏楽の場合は音楽室や教室に入っていくことになる。平日も行おうとするといういろいろな面で問題があるのではないかと。ある校区で中学生の認定地域クラブができた際に、小学生はクラブのやり方との兼ね合いを考えて他の認定地域クラブに入ることも可能なのか。
- 委員：始まっていくと課題が見えてくる。一度始めたからと同じことを続けるのではなく持続可能な形で変化をもたらしていくことが一番の課題になると思う。資料に、現在、試行事業を行っている種目に2種目程度追加を見込んでいるが、考えはあるのか。
- 事務局：アンケート結果から、一つは先生が引き続き指導したい種目を兼職兼業という形で協力を得て進めたい。もう一つは試行事業を行ってほしい種目を地域の方に協力してもらい、マッチングしていきたい。野球やサッカー、バドミントンが候補になると思う。
- 委員：バスケットボールは協会のルールが変わり、中学生がチームを三年間変えられなくなる。地域でバスケットボールの指導をしている人達が焦っている。部活動がなくなるかもしれないというタイミングなので、地域の人や学校教員も協力したいと思っているので、上手くマッチングできると思う。
- 委員：バスケットボールはこれから、強豪高校が今の子どもたちを囲い込むようにクラブチームを立ち上げて自分の高校に入れる形が出てくると思う。文化を含めて、各クラブでどのような形態になりそうなのか予測などを場所と人員を含めて市として出してもらえれば考えやすいのでお願いしたい。
- 委員：今までの、子どもたちが部活動にある種目から行う種目を選ぶのではなく、色々な種目を行うような考え方も選択肢としてあるのではないかと。
- 委員：今の子どもはスマホやゲームが普及し、身体活動の経験が少ない部分があるので、運動や遊びの経験を促すような新たなクラブもあっていいのではないかと。

事務局：長岡京市は、人数を一定数見込めるので、いずれは種目を増やすことも考えたい。また、部活動の自由度も移行期間で上がれば、今までにないクラブもできると思う。他の自治体の例では、部活動を実施しない期間を設け、色々なスポーツを提供して、子どもも指導者もお試しできる取組を行っていたので参考にできると思う。

委員：受ける側として、各校区に平日も指導者を派遣することは難しい。だからこそ、拠点校や多種目実施のような色々な選択肢があれば受けやすい。

4 その他

事務局より説明

5 閉会